

2018 崇仁地区の今日と、  
明日に向かって  
(研修資料)

我々が大事にして来たもの  
教育  
衣食足りて礼節を知る

崇仁教育連絡会の発足(1995. 4) 設立趣旨

- ①しんどい子の親も、しんどい(学力規定要因研究から) Withの力
- ②第2、第4土曜日の休日実施をきっかけに(子どもを家庭に放っておかない)PTCAの力
- ③PTA辞めるには若すぎる 元気の素は仲間づくり

崇仁学習広場 ※絵本読み聞かせ



地域連携(協働)

2006年11月 大文字駅伝下京予選大会優勝



京都市が同和問題終結宣言をされていますが崇仁では今も区画整理事業で事業が進んでいます。

崇仁では戦前から教育を大事にして取り組んで来ました。

95年から始まったこの取組は現在も続いています。  
PTAにコミュニティ、地域も関わって行く運動です。

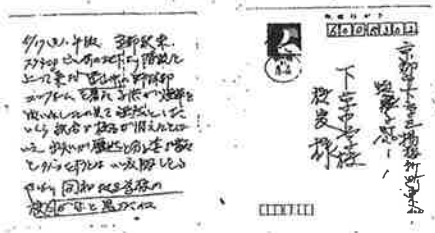
ここまで来るには崇仁小学校OBの先生の協力がありました。

全校生徒60人に満たない学校がどうして優勝できたのでしょうか？ この子たちが入学した年から親子で夜走り始めたのです。中学校統合時の自信のために。

## 下京中学校差別はがき事件

### はがきの内容

5/17(日)午後、京都駅スクウェアビル前の地下より階段を上ってきた「皆山中」の野球部のユニホームを着た子供が煙草を吸い出したのを見て唖然とした。いくら統合で校名が消えたとはいえ出処が歴然と分かる姿で堂々とタバコを吸うとはいい度胸をしとる、やはり同和地区学校の校風かなと思ったね。



## 下京中学校の取組

卒業生、在校生とも事実なし。  
子どもたちをしっかりと育てていこう。

### 差別って？

「差別」という言葉は、「人間」が「特定の人間」(正確には特定の社会的存在)として、社会の中で区別してあつかわれること、そのことによって自分の成長や能力の発達ひいては社会生活のうえでさまざまな不利益をこうむること、として理解されています。

- ①そして、こうした「差別」が本人の意志や行動にかかわらない、つまり差別されることについて、差別をうけている人々には基本的にその責任がなく、
- ②その上、その「不利益」が近代民主社会において何人にも保障されている「市民的権利」の侵害にかかわって存在している場合をさします。

統合前夜にも差別事件を克服してきたのですが、開校して5月にこのような投書が。

汚い字のようですが、続け字が書ける人、書き順がしっかり書ける人のようです。

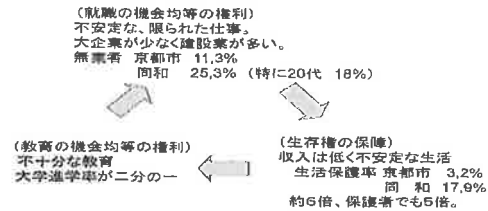
徹底的に調べました、卒業生は「そんなかつこ悪いことしない」在校生は「着替えて帰るよう指導受けて守ります」。

封建社会から資本主義社会へ、そのときに勝ち取った権利が市民的権利。フランス革命によってもたらされた三つの権利。就職の機会均等の権利、居住移転の自由、教育の機会均等の権利。日本では明治維新の下級武士による不十分な革命によって位階制が無くなりましたが部落民に市民的権利は不十分にしか保障されませんでした。そのことで今日まで残ってしまいました。

## 特定の人間

- ・障害を持つ人。
- ・女性。
- ・外国人
- ・同和地区出身
- ・一人親世帯

生活の中の差別(京都市2000年調査から)



### 差別の中での子ども様子

- ・「できひん」「わからへん」「しんどい」「ムリ」
- ・低学力というのは、能力そのものより自分は出来ないという思いこみ。
- ・「自分の子どもだから、勉強は出来ないと思っていた。」  
(親の言葉)

### 差別に負けない子ども 勉強に負けない子ども

後藤晨次 京都文教大学副学長

学力が低いことは、部落差別の結果である。しかし、学力が低いのは部落差別の結果とって、何もしないのは差別に負けた姿。だからこそがんばらねば、そこからは上がれない。

### 同和地区を含む学校での取り組み

「少し頑張ればできること」を目標に設定させ、努力して達成したら評価する。  
努力すること、達成感・成就感の積み重ねの中で、「やればできる」という意欲自信を持たせる。自己肯定感を育てる。セルフエスティーム。やれば出来る。

気を付けなければいけないのは障害を持っていることが差別のげいいんでは無いという事、そして今ここに福島県民に対する差別が始まっている事を付け加えます。

三つの現象が個々に表れているのではなく、連続しているのです。明治に入って以降皮革産業も大手に取られ差別の中肉体労働にしか就けず、不安定な生活、不十分な教育とくりかえされてきました。

私たちが学校と連携を取る中で常にこのような現象を学校から聞いていました。

差別に負けない子供とは勉強に負けない子供。生活環境等から学年が上がるにつれ学力低下する現状それが差別、そして中年大学受験勉強会もはじまりました。私も30歳で入学。

崇仁では地域と学校の連携、教育連絡会の諸々の活動が学校教育に影響を与えてきたのです。

## 崇仁、同和教育の源流

伊東 茂光 先生  
大正9年から昭和21年まで  
崇仁小学校校長

### 負けるな

- ・我らを劣等視する世間に対し、何ら劣るところのない証拠を示す。
- ・運動部「走りの崇仁」
- ・全国大会を含む様々な大会で優勝を重ねる
- ・欠食児童救済のため防臭剤を売り歩く
- ・「東七条のおやっさん」

部落差別 子供の世界ではイジメ  
フランス革命によって市民的権利 獲得  
フランス国旗の表すものは？  
自由 平等 そして 友愛  
友愛の中身は？ 勇気と寛容

友達をつくれ 裏切らない友がいれば勝てる



崇仁にはこんな先生がおられたのです。26年間厳しい差別の中崇仁の子供や地域のために尽力してくださいました、20年8月16日のラジオ放送の後すぐに辞表を提出された校長です。

このような伊東校長の足跡、もっと世の出るべきではと思います。校長は退職後は弁護士として罪を犯した子供たちを助けてくださいました。

子供たちに人権問題を話す機会がありました、イジメに対決する武器を徹底的に考えた末、これしか無いと行き着きました、友達をつくれ。

このような活動を続けてきて、10数年前の中学生が高校でイジメにあっていた子を守り切ったという話をイジメられていた本人から号泣の中聞きました。我々が学校と連携してやってきた取組、芽をふいていました。

②コース 住民の想いととも歩く（銭座跡村：崇仁南部）

案内：藤尾まさよ（崇仁発信実行委員会 代表）

参考資料 ・地域の食文化紹介は全て、地域情報マガジン「崇仁～ひと・まち・れきし6号」  
・資料①②

フィールドワークコース

下京いきいき市民活動センター （塩小路須原通り南下 出発）

↓ \*崇仁のまちと本日の経路説明（資料1）

\*崇仁のお寺紹介 正覚寺：現下京いきいき市民活動センターの場所に建っていたお寺。幕末の蛤御門の変で焼失。明治10年再建。平成5年西京区に移転。センター玄関付近に駄菓子屋があり、子どもたちの社交の場であった。

\*地域の食文化紹介 「洋食屋 かえで」

崇仁小学校西門前（須原通り）

↓ \*伊藤茂光校長紹介（資料2）：崇仁小学校第11代校長（大正9年～昭和21年）同和教育の父と呼ばれる。中道通り（現須原通り）の開通・拡張工事の誓願書提出など、子どもたちだけでなく、地域の環境改善に動く校長先生の姿に、地域住民は絶対的な信頼を寄せていた。

\*案内人生家周辺：被差別部落は劣悪な住宅ばかりがクローズアップされるが、それは地域の全てではない。生家周辺には店舗が並び、自宅中庭に灯籠がある庭を持つ家もあった。生家前の路地は、水を流しての路地掃除などは毎朝大人が行っていた。

\*地域の食文化紹介 「居酒屋 かつちゃん」

須原通り 屋形町付近

↓ \*バラックの家：被差別部落を表す時によく出てくるバラックの家があった。案内人の親戚も住んでいた。小学生の時、よく遊んだ仲良しの友だちの家が無くなっていった。今、思うと同和施策の住宅が建つにあたり、在日朝鮮人の友だちは家族全員立ち退きになったのだった。

\*地域の食文化紹介「うどん・井 糸ちゃん」

八条須原通り

↓ \*昭和30年代、同和施策実施の影響で、在日韓国・朝鮮の人たちは崇仁地域から立ち退きになり、いろいろな感情がある。しかし、今年11月3日（土）東九条マダンが崇仁地域で開催されることを契機として、これから地域同士のつながり再生、京都駅東の玄関口・人権・文化・芸術のまちとして、住民を置き去りにしない上でのまちの開発や活性を一緒に考えて行きたい。

\*タクシー乗務員の愛情という名の差別：須原通り拡張工事完成後、東山方面に向かうタクシーが崇仁地域の中を通るようになった。（一部の）タクシーの運転手がこの道を走りながら「この辺は（部落やから）気をつけろ」と教えてくれた。旅行者

に差別の考えを拡散している実態がある。また、崇仁地域から空車のタクシーを拾おうとして手をあげたら、目の前で空車ランプが消えて通り過ぎて行った。乗車させれば売り上げが上がったはずなのに、差別の考えを使ったがために結局売り上げを逃すことになっている。差別の考えを使うと自身も不利益を被るということに気づいて欲しい。社員の人権教育を進めて欲しい。また、別のタクシー運転手は、崇仁地域の高齢者などに進んで親切に対応をしている事例もある。差別する考えは誰の中にもある。差別はする側される側だけの問題ではなく、自分の中に湧き起こってくる差別の考えに気づくことができるか？それを使おうとしてしまう自分の考えや気持ちにどのように向き合うか？それも考えて欲しい。

#### 河原町通り北上

##### ↓ \* 銭座跡村 (資料1)

安永(江戸時代)、雪駄づくりや皮革業などが繁盛。職の安定が生活の安定につながり遠国、近国からかわた身分が職を求めて住み、人口がどんどん増えた。人口増加に伴い土地使用を御上に申請し、地域が大きくなっていった。明治3年には、須原通りまで達していることも伺える。

##### \* 地域の食文化紹介 「お好み焼き 平井」「喫茶 イブ」「天ぷら さたけ」

途中、フィールドワークを見かけた、お店の方々が店内から、また外に出てきて挨拶をしてくださった。

#### 河原町通り上 広場

##### ↓ \* 現在の崇仁のまち：工事などが急ピッチで進むまちを、広場から360度見学。

##### \* 崇仁未来図デザインプロジェクト：崇仁自治連合会と京都市立芸術大学と崇仁発信実行委員会が取り組んでいるプロジェクト。

明治・大正・昭和と、鉄道移動工事・それに伴う高瀬川流路変更、河原町通の七条通・塩小路通間竣工などの影響で、崇仁地域は何度も南北や東西に分断をされながら姿を変えて来た。今回の崇仁地域の東西ど真ん中に芸大が建つことを地域住民が分断と捉えることなく「ともに心地よく暮らせるまち」として、地域と大学がともに歩みを進めて行きたい。(京都市立芸術大学の移転開校は2023年)

##### \* 地域の食文化紹介 「うどん定食 木村食堂」

#### 下京いきいき市民活動センター (塩小路通りを東へ、会場に戻る)

コース1「崇仁地区の今日と明日に向かって」…講師 菱田不二三氏



コース2 「住民の思いでとともに歩く」…講師 藤尾まさよ氏





コース3 「大仏柳原庄と六条村」…講師 山内政夫氏

